

<p>a 学校教育目標</p>	<p>学び、高め合い、認め合う大和中生 ～夢や目標を抱き、地域・社会に貢献する 生徒の育成～</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>【ミッション】(自校の使命)社会のために役立とうとする志を持つ生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像)夢を抱き、基礎・基本を身に付け、心豊かで郷土から頼りにされる生徒の通う学校</p>
-----------------	--	------------------------------	---

評価計画				自己評価						改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	基礎・基本の定着を図り、活用力を育成する。	①基礎・基本の定着を図るため、授業改善を推進する。	○研究授業及び研究協議会を通して全教科の授業力向上に努める。 ○標準学力調査の通過率40%未満の生徒への個別指導に取り組む。	○全員の研究授業・協議会・まとめの実施 ○週1回の個別指導	100%	53.8%	100%	100%	A	○全員が実施した研究授業や、2・3学期に実施した「授業見合おう週間」での他教科の参観で学んだことを、「研究だより」を通して周知し、授業改善に生かした。 ○毎週学年部で、各学年及び個の課題に応じた学習指導をすることができた。	○引き続き計画的に研究授業・校内研修を実施する。その際、大和中学校の課題を共通認識として、全教科で学力向上につなげていく。 ○個別指導は、各学年の課題・生徒のニーズに応じて内容を考え、継続的に行う。	3			・生徒がペアなどのグループで学び合う授業となっている。 ・家庭学習については、中学校だけでなく、町内全体で家庭への働きかけが必要だと思う。 ・昨年度と比べて授業が詰まった。生徒が相互に教え合い、よく考えている。 ・家庭学習の時間が少ない。引き続き改善してほしい。家で学習する習慣をつけることは必要なので、小学校・家庭と連携して取り組むのがよい。
		②学習意欲を高めるため、学習習慣を身に付ける。	○生活ノートを活用し、家庭学習の内容、時間を明らかにして、学習時間の増加を図る。 ○復習を中心に自主学習ノートに取り組ませ、家庭での学習習慣の定着を図る。	○家庭学習時間1時間以上 ○自主学習ノート実施	100%	60.0% 64.3%	69.0% 72.7%	70.9%	C	○家庭学習1時間以上の生徒69%(1時間以上2時間未満48%、2時間以上21%)。家庭学習の習慣化が図られていない生徒が約3割いる。 ○継続して自主学習に取り組む生徒72.7%(1年100%、2年60.5%)。家庭学習の内容・学習方法を生徒に示す取組で、自主学習ノートの質的向上につながった。提出率に課題のある生徒にも自主学習の効果・必要性を実感させるよう取組の改善が必要。	○自主学習の質的向上に向け、教科担当と連携し、タイムリーな学習内容・方法の指導を継続する。 ○自主学習ノートの提出に課題のある生徒の実態に応じて、個別指導に取り組む。	3			
豊かな心と健やかな体	生徒理解に努め、一人一人の成長を支援する積極的生徒指導の実施と心身の健康の増進を図る。	①生徒理解を進めるため、教育相談を充実する。	○いじめアンケート実施後に、個人面談週間を実施して生徒理解に努める。 ○SCと連携し教育相談体制や取組を充実させる。	○学期1回のアンケート実施と個別面談 ○週1回の生徒支援委員会を実施	100%	33.3% 48.6%	100% 91.4%	95.7%	B	○各学期に1回ずつ、計3回のいじめアンケートを実施。各担任が計画的に個別面談を行い、課題がある生徒については管理職・生徒指導主事と連携し、組織的に取り組むことができた。 ○生徒支援委員会32回、概ね毎週実施できた。学年等からの情報をもとに、全体で情報交換・共有を図ることができた。SCとの連携を取組に生かすことができた。	○いじめアンケート・観察等に基づき、全員に個人面談を実施し、実態の把握・解決に努める。 ○生徒支援委員会を計画的に実施しながら、生徒実態に応じて、生徒理解に努める。SCに助言をもらいながら教育相談体制を充実させる。	3			・授業を通して人間関係づくりを進めていくことが大切だと思う。 ・道徳の授業改善が生徒の関係づくりにも効果をもたらしていると思う。 ・自己肯定感を向上させる取組ができていて、道徳以外の通常授業を通して高めていくとよい。 ・体力的課題への取組を継続して進めてほしい。
		②思いやりの心を育むため、道徳教育の充実を図る。	○協働的な学び合いの場を仕組むなど、考え、議論する道徳科の授業を進める。 ○複数の教員で授業をするなど、指導方法の工夫を図る。	○自己肯定感についてアンケート調査実施での肯定的評価	90%	77.0%	85.5%	95.0%	B	○アンケート項目「自分にはよいところがあると思う」72%(4月)→77%(9月)→74%(12月) 「道徳科の授業では友達と話し合うなどして自分の考えを深めたり広げたりしている」80%→87%→92%で、TTによる授業改善を通して他者との関係づくり、自己肯定感の上昇につながったが、十分ではない。	○道徳科の授業において、協働的な学び合いを仕組み、多面的・多角的な捉えや多様性が受け入れられるよう、他者理解が図られる関係づくりを進めていく。	3			
		③心身の健康を維持するため、体力づくりや食育を推進する。	○保健体育科の授業や部活動において体力の向上を推進する。 ○運動に親しむ態度を育成する学校行事を実施する。	○「新体力テスト」における各種目(項目)で全国平均以上	90%	75.0%	79.1%	87.9%	B	○48項目中38項目で全国平均を上回った。 ○全国平均を下回っていた1年生男子50m走、2年生女子・3年生男子500走、20mシャトルランといった走種目に課題がある。 ○全種目(項目)で全国平均以上を達成できなかったのは、生徒自身に自己の体力をどう向上させていくか課題意識を持たせる取組が不十分であったと考える。	○生徒自身に自己の体力の状況を把握させ、課題意識を持たせる。 ○体育の授業の導入において走種目を強化するサーキットトレーニングを実施する。 ○体力向上を把握するために、課題のある種目について計画的に測定をする。	3			
信頼される学校	体験活動を推進し、地域・保護者との連携を深める。	①園・小・中連携を充実する。	○大和3部会で園小中の連携を密に取り、12年間を見通した取組を進める。	○各部会ごとに成果と課題を合わせて5点以上上げる	100%	86.7%	100%	100%	A	○大和3部会の取組を通して、大和中学校として整理した各部会のまとめ 確かな学力部会→中間成果2、課題3 豊かな心部会→中間成果2、課題4 健やかな体部会→中間成果3、課題2	○今年度の取組についての各部会のまとめを、次年度の園小共通の取組に生かす。	3			
		②地域に貢献するため、体験活動や生徒会活動を推進する。	○自分たちが生活しているふるさと大和町に対して、生徒会を中心とした地域貢献活動に取り組む。	○年3回地域貢献活動の実施	100%	-	100%	100%	A	○10月20日だいわ元気まつりで、1年生が大和町産の素材による開発商品を取売、吹奏楽部がステージ出演し、地域に元気を発信した。 ○11月1日、1・2年生が白竜湖運動公園周辺の清掃を実施した。 ○11月28日、3年生が大和認定こども園の清掃・園庭整備を実施した。	○10月20日だいわ元気まつりで、1年生が大和町産の素材による開発商品を取売、吹奏楽部がステージ出演し、地域に元気を発信した。 ○11月1日、1・2年生が白竜湖運動公園周辺の清掃を実施した。 ○11月28日、3年生が大和認定こども園の清掃・園庭整備を実施した。	3			・大和町として地域貢献できる生徒を育成していると思う。 ・先生方は教材研究・授業準備が大変だと思う。業務改善できるところは進めてほしい。
		③業務改善を行い、働き方改革を進める。	・業務改善担当者を位置付ける。 ・時間外勤務時間の短縮や部活動休養日を設ける。	○週2日の部活動休養日の実施率	90%	97.8%	98.1%	109.0%	A	○のべ315週(4～2月45週×部活動数7)のうち、週2日の部活動休養日を実施した週は309週で、98.1%の実施率。大会前等に休養日を計画的に設定できなかった週が、4つの部において1～2週あった。	○部活動計画に沿って活動し、毎週の活動日・休養日について校内で事前に確認する。	3			

【j:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。
ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。